

みなとしみず

SINCE 1990.6

～清水港をはじめ静岡県内の「みなと」の旬な情報をお届けします！～

発行



国土交通省 中部地方整備局
清水港湾事務所



静岡市清水区日の出町7番2号

TEL 054-352-4146（代表）

事務所HP

<https://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

令和5年度 清水港湾事務所 事業概要

【清水港】

①新興津岸壁の延伸：船の大型化や紙の原料であるパルプなどの輸入増加に対応できるように、岸壁を200m延伸する工事を進めています。

②外港防波堤の改良：大規模地震・津波による防波堤の倒壊を防ぐ「粘り強い構造」への改良工事を進めています。

③日の出岸壁の改良：老朽化対策にあわせて、大型クルーズ船2隻同時着岸等にも対応できるように、岸壁の改良工事を進めています。

④富士見岸壁の改良：老朽化対策にあわせて、船の大型化にも対応できるように、岸壁の改良工事を進めています。

⑤袖師岸壁の改良：貨物をトレーラーシャーシごと運ぶ船（RORO船）等が安全かつ安定的に利用できるよう、岸壁の老朽化対策工事を進めます。



<清水港の事業箇所>



<田子の浦港の事業箇所>

【田子の浦港】

①ポケットの整備：西から運ばれる砂の航路内への流入・堆積を防止し、港の安全かつ安定的な利用を確保するため、港口部のポケット整備を進めています。

【御前崎港】

①防波堤(A)の改良：大規模地震・津波による防波堤の倒壊を防ぐ「粘り強い構造」への改良工事を進めます。

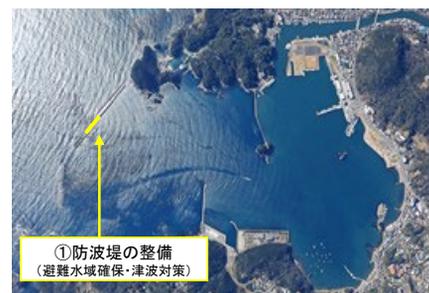
②西埠頭岸壁の改良：自動車運搬船やRORO船等が安全かつ安定的に利用できるよう、岸壁の老朽化対策工事を進めています。



<御前崎港の事業箇所>

【下田港】

①防波堤の整備：下田沖は海上交通の要衝であり、気象・海象条件が厳しい難所であるため船舶が安全に避難できる静穏な水域を確保するとともに、津波から市街地を防護するため、防波堤の整備を進めています。

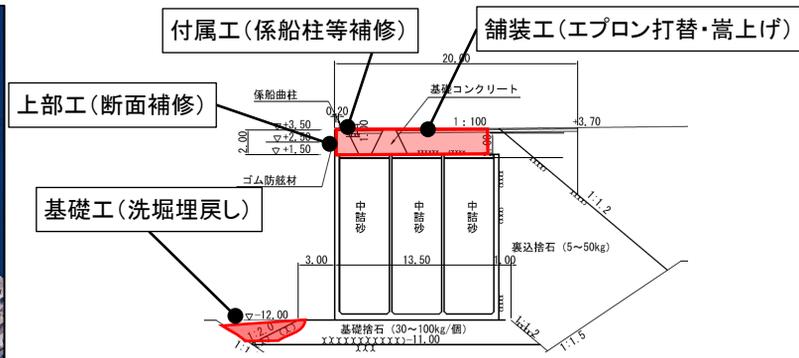


<下田港の事業箇所>

清水港袖師地区岸壁(-12m)改良工事

～高潮・高波を考慮した老朽化対策～ (令和5年度新規着手)

令和元年に発生した台風19号により甚大な被害を受けたことを踏まえて、官民が連携して大型台風来襲時の高潮・高波・暴風などによる被害の軽減と港の防災力強化を図るための取り組みとして「清水港 防災・減災に関する地域検討会」を令和元年より開催してきました。特に被害が大きかった袖師第一埠頭では、その原因の一つとして岸壁の沈下が挙げられています。国内RORO船が利用する主要岸壁である袖師8号岸壁については供用から40年以上が経過し、老朽化が進んでいることから、嵩上げしつつトレーラーやRORO船等が安全かつ安定的に利用できるよう、岸壁の老朽化対策工事を進めます。



< 袖師8号岸壁改良工事概要 >

御前崎港女岩地区防波堤(A)改良工事

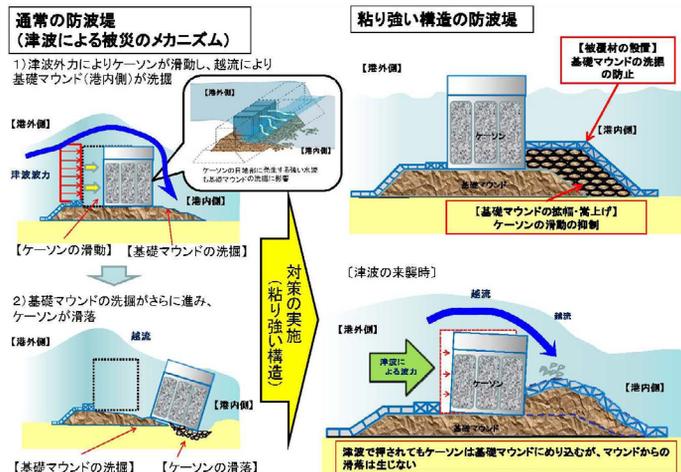
～防波堤の「粘り強い構造」への改良・補強～ (令和5年度新規着手)

東日本大震災では、津波による防波堤の倒壊が長期にわたり港湾における荷役活動に支障をきたしました。静岡県でも大規模地震の発生が危惧されることから、御前崎港で同様の被害が出ないように、防波堤を「粘り強い構造」に改良を進めています。

令和5年度からは、防波堤(西)(東)に引き続き防波堤(A)についても、比較的発生頻度の高い津波を超える大きさの津波が発生した場合でも、防波堤の効果が粘り強く発揮できるよう、防波堤の改良を進めます。



御前崎港の防波堤位置



防波堤の「粘り強い構造」について

清水港新興津コンテナターミナルで 初の大規模津波避難訓練が実施されました。

令和5年3月9日に、清水港新興津コンテナターミナルにおいて、津波避難訓練が実施されました。

この訓練は、清水港防災対策連絡協議会（事務局：静岡県清水港管理局）の主催で実施されたもので、より実態に近い訓練となるよう、地震発生とともにターミナル内の全ての荷役作業をストップし、全員が「津波避難施設兼用照明塔」などの避難施設に避難しました。

清水港湾事務所は、静岡県からの要請を受けて、ドローンによる被災状況調査を実施し、撮影現場から災害対策本部へドローン映像をWEB会議で中継しながら、コンテナ倒壊の様子や海上浮遊物の有無、ガントリークレーンの損傷状況やクレーンオペレーターの安否について報告しました。

訓練参加者からは、「被災直後は立ち入れない場所が多くあることが想定される。ドローンの映像は非常に鮮明であり、はっきりと被災状況を確認することがわかった。」など、ドローンによる被災状況調査の有効性について評価がありました。



ドローンによる被災状況調査



災害対策本部での報告の様子
(スクリーンはドローンの映像)

親子で楽しく学べる清水港見学会を開催しました。 ～船に乗って清水港の魅力を体感！～

令和5年3月28日に春休み小学生清水港親子見学会を開催しました。

参加した親子19組59名は清水港内のクルーズ船「ベイプロムナード号」で港内を周りながら普段は見ることの難しいコンテナターミナルや外港防波堤などの港湾施設、荷役作業や港内の工事箇所、海上の様子などを間近に見つつ、当所職員による港の役割や特色などの説明を受けました。

当日は、コンテナ船、海洋探査船、フェリー、作業船など、多くの船が清水港に入港しており、参加者からは、「普段は見られないコンテナターミナルを間近で見て、とても迫力があり、海から見た清水港の様子を見学できて良かった」「様々な場所を船で見学できて嬉しかった」といった感想をいただきました。



乗船する様子



新興津コンテナターミナルを見学する様子

外国クルーズ船寄港 再開第1号 清水港に客船「アマデア」が入港しました。

新型コロナウイルス感染症の影響により中断していた国際クルーズ船の受け入れが3年ぶりに再開し、令和5年3月1日に、日本における外国クルーズ船寄港再開第1号として、オセアニアのタヒチからグアム・サイパンなどを周遊してきたドイツの客船「アマデア」が清水港に寄港しました。

当日は、客船の入出港に合わせて、清水港客船誘致委員会が太鼓演奏等の歓迎事業や歓迎式典を実施しました。

下船した乗客たちは、日本平、三保の松原、久能山東照宮、富士山世界遺産センター、富士山本宮浅間大社をはじめとした静岡県内の観光地を巡りました。

今年は、多数の客船の寄港が予定されています。清水港の客船入港情報の詳細は清水港客船誘致委員会のHPでご確認いただけますので是非ご覧ください。



客船「アマデア」の入港



市民による歓迎の様子



歓迎式典の様子

Sea級グルメフェスタin沼津2023が開催されました。

令和5年2月3日に、沼津港において「Sea級グルメフェスタin沼津2023」が開催されました。このイベントは、本年10月に開催されるSea級グルメ全国大会のプレイベントとして開催され、静岡県を中心とした7つの「みなとオアシス」が出店しました。

(参加したみなとオアシスは、沼津、おおいがわ、まぐろのまち清水 田子の浦、御前崎、下田、とば)

会場には約2万人の来場者が訪れ、Sea級グルメは完売、またステージでは地元の学生の発表などが行われ、イベントは大盛況でした。10月28・29日に本番を迎えますので是非お越しください。



和太鼓演奏の様子



会場の様子



沼津小判めし

海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと

0120-497-370

受付時間：9時30分～12時、13時～17時(土・日、祝祭日は除く)
携帯電話からもご利用いただけます

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは
何でもお問い合わせください

■お問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

TEL 054-352-4148

pa.cbr-shimizukouwan@mlit.go.jp

ご意見・ご感想をお寄せ下さい。

清水港湾事務所では、学校、企業、自治会の皆様を対象にみなと見学会を行っています。
詳しくは、ホームページをご覧ください